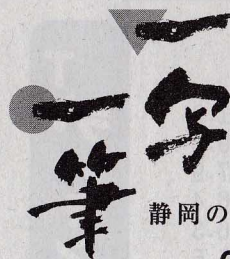


マスクのある日常



99

白い小さな布切れが、日常の風景を一変させている。マスクの着用である。

新型コロナウイルスの感染拡大で臨時休校していた県内全市町の公立小中学校が、6月1日までに再開した。安倍晋三首相が2月27

日、全国の小中学校や高校に春休みまでの臨時休校を要請してから約3カ月ぶりの授業再開で、教室の風景を一変させたのはマスクだった。

この日が「入学式」になった小学1年生もいた。初めての学校で体験したのは「全員マスク姿」の教室だった。マスク取材に答えたマスク姿の新1年

生の感想が気になる。「ボクは学校で何をがんばるのかな?」「コロナ対策です」。

日本人がマスクをする習慣は珍しいことではなかった。医療現場や、日常生活でも風邪を引いた場合などの着用はよくある光景だったが、今や外出や通学の必需品となった。外電によれば、世界保健機関(WHO)も6月5日、市中感染が起きている地域で十分な対人距離を取りにくい場合は、一般市民にマスクの着用を推奨するよう各国に求めた。

「マスク姿」が目立つ中、何かを行動することで、コロナとの戦いを克服しようとする動きも目立ってきた。

1日夜、全国各地で時ならぬ花火が打ち上げられた。こんな時こそ「上を向いて歩こう」と、全国160超の花火業者が「悪疫退散」の願いを込めて企画し、県内からも8業者が参加した。「3密」を避けるため打ち上げ場所は公表されなかったが、遠い夜空の花火を見上げて背中を押された人も少なくないだろう。

県内の高校球児には5日、独自の県大会開催が告げられた。春夏の「甲子園」を失った球児たちの顔に、輝きが戻った。

1日は「衣替え」。涼やかな制服に着替えた女子高生の白いマスクが、制服の一部に見えた。

(前静岡県監査委員・富永久雄)



マスクの洗濯—静岡市清水区、全日写連・大石薫さん撮影